

会 議 議 事 録

会 議 名	令和2年度 学校関係者評価委員会		
開 催 日 時	2020年 6月19日（金） 15:00～16:30		
会 場	東京福祉専門学校 第3校舎 4-1 教室		
参 加 者	委員等	8人	卒業生代表：西田 憲司様（特養きく） 保護者代表：田中 きよ子様 高等学校代表：高部 英彦様（正則学園高等学校） 地域代表：桜井 道夫様（清新北ハイツ自治会会長） 業界関係者：池田めぐみ様（特養なぎさ和楽苑） ：若松 弘樹様（児童養護施設聖友学園） ：皆川 隆太様（就労移行支援事業所 natura） ：中里 武史様（東京都作業療法士会）
	事務局	15人	東京福祉専門学校 学校長 小林 和弘 運営本部長 小川 昭久 事務局長 松川 勝吉 教務部長 木村早希 学部長 野崎淳一（ケアワーク学部） 学部長 坂本美生（ソーシャルワーク学部） 学部長 水谷恵理子（こども保育学部） 学部長 高野大輔（リハビリテーション学部） 学部長 小林紀和子（コミュニケーション学部） 広報センター長 高橋利明 学生サービスセンター長 奥村丈司 キャリアセンター長 鈴木 恭雄 リカレントセンター長 堀 延之 コンプライアンスセンター長 斉藤哲也 書記 藤城佳奈（学生サービスセンター）
会 議 録	1. 学校長挨拶（小林） 学校も今週から分散登校になったがまだ日常を取り戻すには至らない。 本来であれば学生の学習をご覧いただきたいがそれができず申し訳ない。 第三者の目からカリキュラムや授業内容を見ていただきお声をいただきたい。 忌憚のないご意見をいただき、今後の教育活動の向上に活かしていきたい。 2. 自己点検項目説明（配布資料参照） ●学校運営（山崎） 4月はすべてオンライン授業を実施。6月以降から徐々に分散登校を実施。学生に提示する感染症対策を明示（PP参照）		

10 項目を明示し、留学生でもわかる対策を徹底している。今後は状況にもよるがオンラインと登校型をうまく取り入れ効果的な学習方法を確立したい。

広報、教育、就職を報告します。広報は入学実績は 475 名。赤い数字は定員を充足できなかった学科。備考にあるハローワークは委託訓練生を受け入れている。社会福祉士一般養成科、10 名枠が埋まらず 8 名 保育も受け入れ

教育 中途退学率 1055 名に対して 86 名 8.2%。10%を超えている学科は特に留学生が目立つ。

ビザ問題あるが課題は残る。

国家試験について 新卒者が対象。青い学科は全国平均合格率を大きく上回る学科。作業、介護は全国平均を下回ってしまったので各学科対策を練る。

就職について 就職希望者 384 就職者 371 就職率 96.6%。3 月末時点で決まっていない 13 名も支援を続け今はもうほぼ全員が就職先を見つけている。自己評価 3 事業計画を定めている。事業計画自己評価：3 単年度と 5 か年を作成。

人事・給与体制：3 人事考課は目標管理制度に基づいて評価。状況に応じて変更し 2019 年度より新しいものを作成・活用。

意思決定：3 会議等を通じて明確になっている。

情報システム：3 システムを構築しサポート企業が管理している。精算システムや勤怠システムなど WEB 上で管理できるシステム。稟議や物品購入も WEB でできるように効率化している。

●教育活動（木村）

目標の設定：3 アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを学科ごとに設定し教育活動を実施。

年に 2 回教育課程編成委員会を実施。現場のご意見も取り入れ反映している。

教育方法：3

教育カリキュラムの編成は厚生労働省指定のカリキュラムに沿って実施。それ以外に学内施設を活用し人材育成を実施。

専門的な学びだけではなく人間教育的要素も授業の中で実施している。

成績評価：3 学則もしくは指導要領に明記。2019 年度入学生より GPA を導入。奨学金の採用にも関わっているので幅広く活用。

資格免許取得：3 精進していく。特に留学生の介護福祉士取得に向けて日本語プログラムに力を入れている。学園グループの日本語学校にも力を貸してもらっている。授業改革を進めていく。

●学修成果（鈴木）

就職率：3

3 月末で 13 名就職できなかった学生がいたが、4 月まで支援を続け 100%就職まで達成できた。

専門職就職 99.5%で学んだことを活かす仕事に就いた。

資格免許の取得率：3 社会福祉士、精神保健福祉士は全国平均を上回ることができたが、介護、作業は下回ってしまった。

介護は留学生の日本語力は課題。

卒業生の社会的評価：3

開校 31 年目。専門就職率は毎年 95%以上なので学校としてより卒業生とつながっ

ていきたい。2019年度は同窓会も実施。入職1年目の卒業生を支援。

●学生支援（木村）

就職等進路：3 学生一人一人に合った就職を支援するのは、キャリアセンターだけではなく担任も一丸となることが重要。

新型コロナウイルスで休校の間もオンラインで就職活動のサポートをしている。

中途退学 昨年 3→2 へ。1055名から86名の方が退学（8.2%）担任がクラスもモチベーションを図るべく見える化シートを作成。キャリアサポートアンケートも実施。一人一人の状況をつかむ。よりこのアンケート等を活かしていきたい。留学生や職業訓練生など学生のニーズも多様化。クラスのマネジメントをどのようにしていくか昨年の反省を活かしながらやっていきたい。

留学生は学費サポートは学生サービスセンター、緊急連絡ができる環境づくり。

学生相談：3 精神疾患や発達障害をもっている学生も多いのでカウンセラーを配置して支援。施設奨学金制度を留学生は活用。結果は今後学生の登校し始めたら出るのではないか、オーバーワーク対策。

高等教育無償化は認定校となっている。

学生生活：2→3 へ。 保護者との連携：3

担任が抱え込まず、一番よく知っている保護者の方に連絡を取って学生をサポートしている。

卒業生教育について：3

社会人を対象にした研修等（キャリアアップ研修等）を実施している。

●教育環境（奥村）

施設・設備：3 養成施設の基準を満たす施設設備はもちろんのこと前校舎に Wi-Fi 環境を整え、紙で配布していた授業資料をデバイスで閲覧するようになった。

学外実習：インターンシップ等：3 学則の施行細則に従って成績評価をしている。学園の教育理念にもある国際教育の代表である海外研修は選択制。費用面で用意できない学生への配慮が課題である。

防災・安全管理：3

防災訓練の実施、すべての校舎の設備の提示点検も行っている。防犯についてもヒューマンサービスに見てもらっている。昨年より防犯カメラも設置。夜間を想定した防災訓練も実施している。

●学生の募集と受け入れ（高橋）

学生の募集：3 教育=広報という考えのもと実施。6月18日には正則学園高校様とオンラインでワークショップも開催させていただいた。

日本語学校とも連携し国家試験やビザ関係等情報交換できる関係を築いている。専門職スタッフの体験授業を受けてもらい、目指すべき職業イメージを持ってもらえるよう意識している。

入学選考：3 特に留学生の入試は面接、作文、日本語試験、書類審査を実施している。

●財務（奥村）

すべての項目で 3 法人の経理担当と学校で適切運営ができているか毎月確認を実施。ICT 教育を取り入れた結果、コピー用紙の消費量が予算を大幅に削減できた。

HP で情報公開もしている。

●法令等の遵守（斉藤）

今年の3月に日本プライバシー協会の方に個人情報保護の研修を実施していただいた。学校として個人情報漏洩保護には気を配っていききたい。

●社会貢献・地域貢献（鈴木）

地域貢献・地域貢献：3 5年継続している介護担い手研修を実施。3年目のなごみの家葛西南部も地域の方に利用頂いている。高等学校の生徒様にも貢献として継続的なワークショップ等を行っていききたい。

ボランティア活動：3 2019年度よりカリキュラムにボランティア活動を入れ込んだ学科もあった。たくさん依頼をいただき学校としても積極的に出していきたいが授業や実習の関係で中々案内ができなかったため。

3. 委員からの質問、ご意見

高部様

生徒に「福祉」を伝えることができない。

「変わらない仕事」として福祉の仕事を紹介してもらった。生徒の心に響いたようだった。期待している。

皆川様

精一の定員を満たしていないのはショック。最近の傾向などあるのか？

退学について、ほかのところに行っても卒業することで価値になるものがあればいいと思った。

→坂本：3年ほど定員は満たされていない。心理学部系の大学卒業者の入学者が多かった。ここ数年大学生の就職率が上がったため、進学という選択肢をとった人が多いのではないかと。

小川：退学者について 留学生の退学理由は日本語学校のオーバーワークが一番多い理由。

これからは納税証明等を学校として求め、不用意な退学を防ぐことも検討中。個別最適化を目指す。学生の学び方が集合型拵一だったが、今は個別化している。学び方、生活習慣等に合わせた学び方を検討。オンラインになってから出席率が向上し、学生の習熟度も上がったのでなぜそうなのか今後分析していく価値はある。東京福祉は LMS を取り入れていたので非常にスムーズにオンラインでの授業を行うことができた。

若松様

同窓会の参加者数、参加率を教えてください。

早期離職の%はどのくらいか把握しているか、またはその理由は？

→鈴木：昨年度の同窓会 98名の参加。約 350名対象。早期離職は3～5%。理由は多くは人間関係。

1年で辞めてしまった卒業生はそのまま連絡を取り続け、相談希望がある場合は求人票の提示や面談等を行っている。

桜井様

ボランティアや地域貢献には興味ある。清掃ボランティアを数年前お祭りでやってもらった。これからもぜひ学生に活躍してほしい。

西田様

施設奨学金制度について、この制度によってアルバイトしている留学生を見ると期待できることが多い。日本の介護人材確保のモデル化につながると思う。特定技能での人材確保をしている部分もあるが、オーバーワークで働けなくなる人も多い。悪意があつてというより無知識によってということが多いように思うので、学校や施設がうまく管理し花開くといいと思っている。

田中様

こどもはコロナに対して不安が大きい。実習が中止になり授業もなくなり、学校から課題がくると辛そうだった。就職活動に対する不安も大きいように見える。学校が始まって少しクラスメイトと話すことで元気になってきた。先生方も声がけ等していってもらえたらうれしい。

→学校としても感染症対策もしているし、さらに声がけ等気遣いをして学生をサポートしたい。

池田様

ICT 環境の整備についてと、なごみの家の活用について詳しく教えてほしい。

→木村：1、2年生は自分のデバイスを持ってくるもらい、オンラインでは自宅で活用してもらう。学園割引で安価で購入できるデバイスも用意している。希望の学生には無料でポケット Wi-Fi を貸し出している。今後の状況を見ながらさらに環境整備を行う。

なごみの家については、地域共生学がメインになるが、この後学生の登校型が増えればさらに活用されると思う。

2年生は専攻でさらに深い学びをなごみの家で行う予定である。

中里様

学生の授業アンケートについて。学校全体はどうかを聞けたり授業全体につながりなどを確認できるツールはあるか？

→数年前まで卒業時満足アンケートを取っていたが活用しきれずやめてしまった。これからは学生の声だけではなくエビデンスとして学生からのデータというものを活用していく必要があると先日行われた ICT 研修でも話があったのでぜひご意見として活用させていただきたい。

4. 終わりに（小川）

このコロナ禍で次年度以降どうやって学校運営していくか非常に貴重な意見をいただきありがとうございます。学校として貴重な財産となります。

以上

